

Tokyo University of the Arts
Faculty of Fine Arts
Department of Aesthetics and Art History

AESTHETICS
JAPANESE AND ASIAN ART HISTORY
WESTERN ART HISTORY
HISTORY OF CRAFTS

東京藝術大学 美術学部 芸術学科
入試案内・学科紹介

<http://www.geidai.ac.jp/labs/geigaku/>

Tokyo University of the Arts
Faculty of Fine Arts
Department of Aesthetics and Art History
Aesthetics and Art History
2024-2025

2025年度入試について

大学入学共通テスト（外国語を含む3教科・3科目、計600点）、個別学力検査等1日目の学力検査（外国語・地理歴史、計400点）、2日目の実技検査等（小論文または鉛筆素描、200点）の合計点（1200点）に、出願書類（調査書等）の審査を加えて総合的に合否を判定します。

合格者は個別学力検査等2日目の実技検査等の選択科目（小論文または鉛筆素描）ごとに判定し、原則としてそれぞれの受験者数に応じて合格者数を比例配分します。詳細については本学入試情報サイトの、本年度の『入学者選抜要項』、および本年11月頃公開予定の『東京藝術大学学生募集要項（美術学部・一般入試）』をご参照ください。

 東京藝術大学入試情報サイト
<http://admissions.geidai.ac.jp>

大学入学 共通テスト	個別学力検査 (1日目) 外国語 地理歴史 計 400 点	出願書類 調査書等の 審査
外国語を含む 3教科 3科目 計 600 点	実技検査等 (2日目) 小論文 または 鉛筆素描 200 点	
合計 1200 点 総合的に判定		

1 日目

外国語・地理歴史

1日目の個別学力検査では、入学後の授業において必要となる外国語と地理歴史の基礎学力をみます。

外国語は、入学願書提出時に英語・ドイツ語・フランス語の3科目から1科目を選択します。原典講読などの授業に対応できる語学能力をみることに主眼を置きます。過去5年間は、各科目とも芸術に関連する150語前後の原文を提示し、日本語訳を作成する問題を2題ずつ出題しています。

地理歴史は、試験開始後に世界史探究・日本史探究の2科目から1科目を選択します（なお2025年度入試に関しては、いずれの科目とも旧課程履修者にも配慮した出題内容といたします）。この試

験では美術史系の授業の前提となる、歴史の基礎知識を問うことに主眼が置かれています。個々の歴史事項に関する正確な理解とともに、複数の歴史事象を結びつけて合理的な論述を展開する能力や、高い視点から歴史の流れを大きくとらえる能力をあわせて問います。両科目とも過去5年間は、記述式問題1題（解答用紙はA4罫紙1枚）と語句説明3問（4問から3問を選択、各問とも解答用紙はA4罫紙1枚）を組み合わせる形式、または語句説明のみ5問（9問から5問を選択、各問とも解答用紙はA4罫紙1枚）を解答する形式で出題しています。

2 日目

小論文 または 鉛筆素描

2日目の実技検査等では、芸術学を学んでいく上で要求されるより専門的な能力をみます。受験科目は、入学願書提出時に小論文・鉛筆素描（石膏像）の2科目から1科目を選択します

小論文は、問題の意図を正確に読み取る理解力や、論旨を組み立てる論理性、説得的な文章を書くための日本語の表現能力をみることに主眼を置きます。このような能力は、入学後にレポートや卒業論文を書く上でも重要になります。過去5年間は、美術作品の図版を見て記述を行う問題や、芸術作品のあり方について原理的に問う問題が出されています。最近の出題例は、次のとおりです（問題文のうち、注意事項などは省略しています）。

2020(令和2)年度 | 今まで見た芸術のなかで、衝撃を受けた作品について、具体的に説明したうえで、自由に論じなさい。
印刷や映像媒体を通じて見たものでもかまわない。

2021(令和3)年度 | 図版の絵を見て、そこにどのような意味や物語が表されているのか、自由に想像して論じなさい。
(作品に関する知識は問いません)
図版の絵: ロレンツォ・ロット《純潔の寓意》1505年頃、ワシントン、ナショナル・ギャラリー

2022(令和4)年度 | 芸術の存在理由について、あなた自身の考えを述べなさい。

2023(令和5)年度 | 戦争と芸術に関して、ひとつの作品を挙げて自由に論じなさい。

2024(令和6)年度 | 別紙の図版を用いて2体の像を比較した上で、建築との関係にも注意しながら、この作品の造形表現について自由に論述しなさい。
別紙図版の像: 《金剛力士立像【東大寺南大門/奈良】》
建仁3年(1203)、運慶工房作

鉛筆素描では、対象を正確に観察して素描する基礎実技の能力を問うことに主眼を置きます。3時間という限られた時間の中で、石膏像のかたちや空間を的確にとらえ、再現的に表現する実技能力をみます。最近の出題例は、次のとおりです。

2020(令和2)年度 | パルテノンのヴィーナス

2021(令和3)年度 | 青年マルス

2022(令和4)年度 | アリアス

2023(令和5)年度 | ランバンの騎士首像

2024(令和6)年度 | あばたのヴィーナス



入学後の学びと進路

入学後の学びについて — 美学研究室／日本・東洋美術史研究室／西洋美術史研究室／工芸史研究室

藝大の芸術学科のカリキュラムの大きな特色の一つは、実技を藝大各科の教員から学べることにあります。

学部の1、2年次には、週3回午前中に、版画、油画、写真、日本画、彫刻の授業が、それぞれの科の教員の指導のもと、アトリエでおこなわれます。実際に手を動かし、何かを作り出してみることで、美術作品を見つめる眼差しが次第に変化していくことに気がつくことでしょう。本や図版から得られる情報とはことなる、対象への視点と感性が養われることは間違いありません。

一方講義や演習では、専門的な知識を身につけるとともに、自らの考察力、発想力を伸ばします。ほとんどの授業が大学院生も含めた全学年の混合授業であるのも芸術学科の特徴で、入学すると同時に、1年次から専門的な授業に触れることができます。課題を与えられて発表する形式の演習（いわゆるゼミ）の授業では、上級生や大学院生の発表を参考に、配布資料やプレゼンテーションの手法などを実践的に学びます。

美術史や美学を学ぶ上で重要な外国語も、低学年のうちに集中して習得することが望まれます。英語の他に、フランス語・ドイツ語・イタリア語を上級まで学ぶことができるほか、中国語や韓国語など各国語の授業が設定されており、言語・音声トレーニングセンターなどの活用もできます。

2年次には、古美術研究旅行（通称「古美研」）がおこなわれます。藝大の「古美研」は、明治38年頃、東京美術学校の時代にはじまった伝統ある見学授業で、美術学部全学科の必修科目です。奈良、京都に1～2週間、教員とともに合宿し、一般非公開の国宝や重要文化財の見学を含めて近畿地方の古社寺や美術館をめぐるります。

3年次には卒業論文の執筆題目と指導教員を決め、4年次にかけて執筆します。1年以上をかけてしっかりと取り組み、4年間の集大成としての研究論文を作成します。

芸術学科では教員1人あたりの学生数が8.9人（学部定員／教員数）と、大変充実した少人数教育が実現されています。美学と美術史の分野に関してこれだけの数の教員を揃えている大学は他に見られません。

美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史と、それぞれの専門になった9人の専任教員が皆さんの入学を待っています。



基礎造形実技（日本画）



美学特講（現代芸術論）



基礎造形実技（彫刻）



工芸史調査実習

卒業生の進路

卒業後の進路は多岐にわたり、芸術学科の卒業生は様々な分野で活躍しています。

なかでも、美術館や博物館の学芸員として働く卒業生は数多く、その活躍ぶりはよく知られています。芸術学科への入学を希望する受験生の皆さんにも、将来、学芸員になりたいと思っている方が多いのではないのでしょうか。芸術学科では、学芸員になるための基礎をしっかりと学び、規定の単位を取得することによってその資格を得ることができます。学芸員の採用に際しては、多くの場合、大学院を修了していることが条件となっています。そのため、学部での勉学を終えた後、さらに大学院に進んで専門性を深める場合も多く、芸術学科を卒業する20名のうち、毎年半数近くが本学大学院美術研究科に進学しています。ギャラリーや出版社、新聞記者、美術雑誌のジャーナリストなど、他の美術に関係する仕事にも多くの卒業生が就いています。新聞社やテレビ局などの文化事業部と呼ばれる部署は、展覧会の企画や運営を行うことから人気があります。なかには経験を積んで、世界的に有名なギャラリストとして新人作家を発掘したり、ビエンナーレのような国際美術展を組織するキュレーターも生まれています。

またアーティストとして活躍する卒業生もあります。藝大では学生時代を制作者に囲まれて過ごす中で、芸術的な刺激にもたいへん恵まれます。

大学院に進んで修士論文や博士論文の執筆を目指し、学問をさらに深めることもいいでしょう。研究者として活躍する卒業生も数多く、本学のみならず、日本中の大学で芸術学科を卒業した教員が教鞭を執っています。

【学部卒業者】

岡崎市役所
国立天文台
東京国際フォーラム
東京都庁
東京労働局
特許庁
横浜市芸術文化振興財団
読売新聞社事業局
毎日新聞社（美術・文化事業部）
NHK
共同テレビジョン
東宝
電通
博報堂DYメディアパートナーズ
読売広告社
小学館
生活の友社
ポプラ社
三井不動産リアルティ
マジボックス
ベクトル
凸版印刷
ベネッセホールディングス
伊東屋
サンゲツ
イッセイミヤケ
ヴァンドームヤマダ
ヨーガンレール など

【大学院修了者】

国立西洋美術館
東京国立近代美術館
東京国立博物館
奈良国立博物館
岩手県立美術館
大阪市立東洋陶磁美術館
埼玉県立近代美術館
渋谷区立松濤美術館
富山県美術館
東京都美術館
八戸市美術館
ふくやま美術館
横浜美術館
サントリー美術館
SOMPO美術館
ポーラ美術館
三菱一号館美術館
日本芸術文化振興会
朝日新聞社
クリスティーズジャパン
丸善ジュンク堂書店
愛知県立芸術大学
京都大学
千葉大学
東京大学
大妻女子大学
獨協大学
東京工芸大学 など



1: 美術館見学 2: 西洋美術史研究室海外研修（ヴァールブルク・ハウス） 3: 古美術研究旅行

芸術学科生の声

芸術学科に入学するまで

2023年度入学 関根 怜香

芸術学科に入学した理由を一言で言うと、歴史が好きだからです。なかでも大きな出来事は、小学5年生の時に東京国立博物館で開催された兵馬俑の特別展を見に行ったことです。この展示のキャプションに（模造）と付いているものと付いていないものがあり、数多くの作品が海を越えた地で二千年以上も前に作られたものが私を今囲んでいるのだと気づき、驚きを超えて感動しました。兵馬俑のオリジナルがしっかりとしたガラスケースもなくただ四角で区切られた少し高い台座に立っていて、もうちょっと手を伸ばせば悠久の歴史に触れられそうなのに、と思いつつ展示を見終えたことを今

でも覚えています。このとき何らかの形で博物館や美術館に携わりたと思いました。

高校生になり考古学や歴史学が研究できる大学に進学したいと漠然と考えていました。上野公園を散歩中に偶然藝大の前を通りかかり、進路に迷っていた私は藝大について調べて芸術学科の存在を知り、大学パンフレットや説明会を申し込みました。美学や美術史からの歴史という私には新しい観点に心惹かれたことに加え、実技の授業があること、専門授業が充実していることなどが受験の決め手となりました。

受験対策は、高校2年生の1月から芸術学科に特化した予備校に通い始めました。全ての教科を通じて意識したことは、誤解を招きづらい、読み手にわかりやすい文章を作り上げることです。自

分の中では理解したと以为ていても、実際に文章にするとうまく表現できていなかったと気づくことがありました。何度も繰り返して書いて練習すること、共通テストと二次対策を一括りに考えることが大切だと思います。

入学すると、美学史、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史などを二次試験の歴史科目の選択問わず学びます。歴史好きが高じて日本史と世界史、どちらも高校で履修してよかったなと思っています。

受験に向けて、諦めそうになることがあるかもしれませんが。その時には芸術学科が面白そうだったその直感を信じてみてください。みなさんのご入学をお待ちしています。

芸術学科生の日

2022年度入学 森 福太郎

一日の過ごし方に関して、1・2年次は基礎造形実技という実技の時間があるため3・4年次の過ごし方とは大きく異なってきます。3年次以降は空きコマも増えその時間をいかに使うかというようになりますが、最初の二年間については週3回の1・2限を実技にあて、それ以外の午後の時間に美術史の概説の授業や語学の授業をとることになります。教職課程や学芸員課程に関しても基本的には午後にとることになるので1日のコマ数は大体4コマや5コマとなり、図書館やサークル活動などに行くのはさらにこの後になります。そのため最

初のうちは少し忙しく感じるかもしれませんが。しかしそれぞれの授業にはそれだけの面白さや学びがあり慣れてしまえば、少なくとも私に関してですが、あまり疲れなどは感じなくなりました。

特に注目されがちな基礎造形については、早速1年生の4月から版画実習というものが始まり、新生生だった私はとても大きな刺激を受けました。版画実習だけは例外的に週5日すべての午前中を使って行うことや選んだ版画技法によっては他科の学生と共に作品を制作するという点、そもそも今までは鑑賞するばかりであった版画を実際に制作するという点など、その後の鑑賞について大きな糧になります。私は当時取ったメモを今でも見返しています。

また授業がない時間に関しては図書館や美術館・博物館で楽しく過ごすことができます。藝大の図書館はすごく大きいという訳ではありませんが、蔵書の内容が芸術に集中しているので美術や音楽の書籍は豊富にあります。用事がなくても入ってさえしまえば作品集を見たり授業で紹介された書籍を手にとったりと楽しみに事欠くことはありません。また少し本に疲れたときはすぐ近くの東京国立博物館や国立西洋美術館に行くのもとてもいいです。藝大生はこれらの常設展を無料で鑑賞することができるのでとても敷居が低く、ただ一つの作品をじっくり見ると訪れるなどということも簡単にすることができます。授業はもちろん図書館や美術館・博物館が日々を充実させてくれています。

芸術学科を卒業して

2017年度入学 柿崎風香

私は高校生の時、美術展には学芸員以外にマスコミの文化事業の人たちが関わっていると知り、両方の進路を視野に入れて学ぶためにこの大学を選びました。芸術学科は授業が充実していて課題も多いですが、多くの学生は学芸員課程や教職課程も履修しています。私は学芸員課程を取り、他にはサークルや藝祭実行委員の活動、アルバイトにも時間をかけていた学生でした。

芸術学科での学びは多岐に渡りますが、特に2年次の古美術研究旅行が印象に残っています。旅行自体もとても勉強になりましたが、この旅行には割り当てられた作品について調べて発表するとい

う事前課題がありました。私が担当したのは平等院鳳凰堂阿弥陀如来像でしたが、知れば知るほど平安時代後期の仏教彫刻史に魅了され、3年次に研究室を選択する際の決め手にもなりました。勉強すればするほど、考えれば考えるほどわからないことが出てくるので、美術史を研究する世界があまりに広くて深いことをこの時強く実感したので覚えています。

学生最後の1年間はコロナ禍に見舞われました。予定していた仏像の調査が中止になり、ゼミも全てオンラインでした。旅行の計画もサークル活動も全部飛びました。その分、真剣に仏像と向き合い集中して卒業論文を書き上げた1年間は本当にかげがえのない時間だったと思っています。実技の授業で作品が出来上がるまでの工程を実践したり、

ひとつの作品について深く追究して発表したりしたことが、全て繋がっていました。芸術学科で学ぶ、作品に基づいた美術史研究には、作品と先達の研究者へのリスペクトが根底にあります。学芸員や研究者を目指すにはもちろんのこと、たとえ研究の道を選ばなかったとしても、この心意気はあらゆることに通じると感じています。

私は学部を卒業後、大学院に進学する同級生も多い中、一般企業に就職しました。最後の1年で研究の面白さを感じてしまったために若干後ろ髪を引かれながらも、それでも私がずっと進み続けた道を選びました。現在は美術とは別ジャンルの企画を担当していますが、いつか美術展に携われるように、今できることを精一杯頑張るところです。